

開催日	7月11日(月)	会場	東雲小学校 体育館	
時間	18:00~19:00	参加人数	18名	
計画位置付け	令和10年度 義務教育学校(桜が丘中学校・東雲小学校・朝陽小学校)			
質問	Q1-1 児童数が少ない学校は無くなっていくということか。それでは小学校の無い地域には若い人が来なくなり地域が衰退することがはっきりしている。そういうことも考えているのか。児童数が少なくなることのデメリットばかり言っているがメリットもあるのではないか。			
回答	A1-1 少人数教育についてメリットがあるという点は承知しているが、このままでは複式学級となる可能性が高く、メリットよりもデメリットが上回ってしまうことを我々は憂慮しており、こういったかたちのご提案をさせて頂いた。			
質問	Q2 学校再編されると児童館も距離が遠くなるのでは。児童館の配置はどのように考えているのか。また、スクールバスが出ると言っても、児童館を利用する上では不便になるのではないか。			
回答	A2 児童館については、学校再編と一緒に考えていかなければいけない問題だと考えている。スクールバスの利用について、頂いたご意見を児童館の担当部署とも共有し、検討して参りたい。			
質問	Q1-2 朝陽小学校、東雲小学校、桜が丘中学校による義務教育学校は、桜が丘中学校を活用することだが、東雲小学校の校舎を活用することにはならないのか。			
回答	A1-2 施設の規模として東雲小学校は小規模であり、普通学級、特別支援学級の教室数・特別教室数の確保が難しいので、位置的な部分、校区、施設の大きさを総合的に判断して、ある程度余裕を持って運用ができる桜が丘中学校の活用を現段階では考えている。			

質問	Q1-3 結局人数が少ないので活用しないのではないか。数の論理にしか聞こえない。教育のことを考えると学校が減ることもわかるが、地域のことを考えると学校が無くなってしまおうと大変なことになる。地域が衰退していくことが目に見えているので、そういったことも考えてほしい。小中一貫は良いと思うが、小規模の学校と介護施設を一緒にして中学生も集まるようにすれば、そこで子どもたちは年配の人の話を聞くことができるし、年配の人も子ども達から元気を貰える。そういったことを将来的に考えることはできないか。
回答	A1-3 基本計画を作るにあたって、児童生徒数の減少による数合わせで学校を統合するという考え方ではなく、子どもたちに取って最適な教育はどのような環境かというところで作っている。東雲小学校は、新1年生の人数が一桁となり、複式学級になることも考えられ、人数が減ることによる教育のデメリットをなんとか解消したいという考えである。地域のことを考えると小学校が必要だという意見もあるが、将来的に複式学級になると先生が1人で2学年を持つこととなる。その複式学級の環境が本当に子どもたちに取って良いのか、保護者の考えもあるが、現状としてそういった心配があるということについてご理解を頂きたい。学校と地域が密接な関わりがあるというのは重々承知しており、人口が減ってきている中、この地域だけではなく、昭和地区以外全体的に減っており、釧路市の大きな課題であるが、地域の衰退に繋がる問題はもっと大きな視点で街づくりの観点で検討しなければいけない問題であり、子どもたちに対して最適な教育環境をどの様にすべきかということについては基本計画のたたき台に対して皆さまのご意見を伺った中でしか構築できないので、様々な視点からのご意見、ご要望を頂きたい。
質問	Q3 最適な教育環境を整えることも大事かもしれないが、市内では、経済的に困窮しており、食事を満足に食べられない子ども達が実際にいる。私は深刻な中1ギャップというのは経験していないし、もっとこうした深刻な問題について目を向けた対策を行うべきある。また、小学校は地域コミュニティの中心的な存在で、東雲小学校は令和10年度に50人とのことだが、それだけいれば学校が成り立つのではないかと思うので、東雲小学校を残していただきたい。
回答	A3 経済的困窮について、釧路市として考えていかなければいけない問題であるが、この学校のあり方検討とは別に考えるべき問題である。児童生徒数の推計について、住所をもとに算出しているが、東雲小学校ではなく、他の学校に入学する児童生徒がいた場合を考慮していないので、10年後、実際には児童生徒数がもっと少ない可能性もある。そういったところも併せて地域の皆さまに考えていただきたい。
質問	Q4 部活動や行事は小学校と中学校一緒に行うのか。保育園行事で学校を借りていたが、学校が無くなった場合でも借りることができるのか。
回答	A4 部活動については、小学生は少年団・同好会で活動し、中学生で部活動を行う学校があれば、小学校3、4年生から部活動の参加を認めているところや、それぞれの学校で合同で行う場合もあり、学校ごとによって変わってくる。 使用しなくなる学校の利用については、現在利用されている状況を把握し、地域の皆さまの不便にならないよう検討する必要があると考えている。